

「いろいろな雲を探す(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

今年度は、6年生4クラスと、5年生1クラスの理科を受け持つことになった。週時間数で、理科だけで15時間。なかなか教材研究のやり甲斐がある。

大日本の5年教科書の最初の単元は「天気の変化」である。4月～5月にかけては、移動性高気圧や南岸の低気圧が定期的に現れ、東京では天気の変化を観察するには都合が良い時期といえる。私は単元の始めに、実際の空や雲を観察させることにしている。よく晴れた快晴の日よりも、やや大気の状態が悪い日のほうが、さまざまな雲が現れて、観察には都合が良い。



この日は朝は快晴だったが、次第に雲が現れ、4校時にはさまざまな雲が観察できた。子どもたちには、「十種雲型」を描いたプリントを渡し、校舎の屋上で「雲探し」の活動をした。十種雲型とは、巻雲・巻積雲・巻層雲・高積雲・高層雲・乱層雲・層積雲・積雲・積乱雲・層雲の基本雲型のことである。



積雲はすぐに見つかった。「わた雲」「つみ雲」として親しまれている雲で、子どもが画に描くのも大抵はこの雲だ。積雲は大気圏下層から中層にまで分布し、圏界面にまで達して、積乱雲に発達することもある。



層積雲も見つかった。積雲との区別が難しいが、「うね雲」の異名の通り、細長い雲がうね状に連なるのが特徴だ。代表的なものに「晴層積雲」と「雨層積雲」があり、この日のものは降雨を伴わない「晴層積雲」だ。大気下部の下層雲に属する。



上層雲の「巻積雲」も多数見られた。「うろこ雲」とも呼ばれる。上層大気が不安定な証拠で、悪天の兆となる。実際にこの翌日に、東京は一日中雨になった。